

■北海学園大が2年連続10回目の優勝、北大は2校優勝の可能性残す。第7節

第51回北海道学生アメリカンフットボール選手権第7節は10月5日、札幌市円山競技場で1部の2試合を行った。北海道大が21-14で釧路公立大に競り勝ち、北海学園大が70-7で室蘭工業大に大勝した。北海学園大は4勝、北海道大は3勝1敗、釧路公立大は2勝1分け1敗、室蘭工業大は1勝3敗。この結果、北海学園大が1試合を残して2年連続10回目の優勝を決めた。また、北海道大も第8節の結果次第で2校優勝の可能性を残した。第8節は10月12、13日、1部の2試合と2部の1試合を行う。12日は札幌学院大グラウンドで2部の北海道科学大-北星学園大（午後1時開始）、13日は札幌市円山競技場で1部の北海道大-東京農業大（午前10時開始）、北海学園大-釧路公立大（午後1時開始）。

前年準優勝の釧路公立大と同3位の北海道大は、北海道大が接戦を制して、前年の雪辱を果たした。

北海道大は第2Q最初のプレーでQB神田智史（4年）の10ヤードランで先制。7-7の同点で迎えた第4Q、0分にQB神田からWR米谷和馬（3年）への12ヤードパスで14-7と勝ち越すと、同5分にはWR雨宮暖（2年）の82ヤードパントリターンTDで21-7と突き放した。



釧路公立大は第3Q 8分にWR鼻和蓮（3年）の2ヤードランで7-7、第4Q残り2分にRB与那覇裕夢（3年）の5ヤードランで14-21と追い上げたが、及ばなかった。

北海道大の樋之本彬HCは「4年生OLが頑張り、ランプレーが出た。パントリターンなど決めるべきところで決められた。去年の借りを返せた」と選手の頑張りたたえたうえで「もう1回チャンスがあれば、必ずつかみ取りたい」と2校優勝とプレーオフの可能性を見据えた。決勝点となったパントリターンTDのWR雨宮は「ラッシュが来ていたが、横に振って外し、あとはスピードでブロックを生かした。リターナーの役割を果たせた」と会心の走りを振り返った。

釧路公立大の伊藤祐介HCは「キッキングゲームの差が出た」と惜敗を残念がりながら「北海学園大は2023年が2点差、去年が1点差で負けた。今年は勝つだけ。僕たちの存在を示す」と最終戦に向けて力を込めた。主将のQB中西亮太（4年）も「あと1週間、アメフトにかける」と決意していた。

連覇を狙う北海学園大と前年4位の室蘭工業大は、北海学園大が10TDの猛攻で圧勝した。

北海学園大は第1Q、4分にRB加藤真之助（4年）の1ヤードラン、7分にRB北脇瑠依（1年）の10ヤードランで14-0。第2Qも1分にRB北脇の47ヤードラン、11分にQB成田滉佑（4年）からWR神林駿太（2年）への8ヤードパスで加点。第3Qには、後半開始の77ヤードキックオフリターンなどRB北脇の2本のTD、7分のWR神林の63ヤードレシーブ、第4Qも2分のRB北脇の5本目のTDとなる49ヤードラン、4分のRB加藤の53ヤードレシーブ、9分のWR五十嵐勇星（2年）の13ヤードレシーブを集めて大量点を奪った。

室蘭工業大は第2Q 7分、QB原田颯太（3年）からWR安澤拓実（1年）への16ヤードパスで7-21と追い上げたが、その後は北海学園大守備に反撃を阻まれた。

北海学園大の高木幸樹HCは「今日は走ることがテーマだった。2人目のRBも見つかった」と収穫を挙げ、最終戦の釧路公立大戦に向けて「しっかり準備して臨みたい」と手綱を引き締めた。5TDのRB北脇は「春のオープン戦ではTDを挙げたが、秋季リーグでは初めて。キックオフリターンTDが一番気持ち良かった」と笑顔をはじけさせた。



室蘭工業大の半沢伸太郎監督は「いい流れでT Dを取れたのが収穫。最終戦の帯広畜産大戦は、今日の敗戦から選手たちが収穫を見つけ、思い切り勝ちたい」と期待していた。

(学連広報委員 塚田博)